小野中学校だより
第　２７　号
文責：校長　大河原久宗
2020．1．15．WED
TEL:72-3355　FAX:72-2829

＜教育目標＞
【夢～自立・友愛・健康】
・課題を持ち、進んで学ぶ生徒
・互いのよさを認め、高めあう生徒
・健康で、心身を鍛える生徒

1月17日：「ボランティアの日」

【1/17　阪神大震災の悲しみを忘れない！】

６４３４人の犠牲者を出し、戦後に発生した地震災害としては「東日本大震災」に次ぐ規模であった「阪神大震災」は１月１７日で発生から丸２５年を迎えます。この地震で多くの児童生徒等の命も一瞬に奪われました。受験勉強中に震災に遭い、ボールペンを握ったまま犠牲になった中学３年生の女の子。将来は国連職員か国際ボランティアになるのを夢見ていた神戸大学生。地震は、一瞬にして若者の「命」と「夢」を押しつぶしたのです。

また、地震は、最愛の家族をも奪いました。妻と娘を亡くした男性。２歳の長女を亡くした父親。数多くのかけがえのない命が奪われました。

父親を亡くした４歳の子どもの詩（作文）を紹介します。今、２９歳となり、立派な大人に成長したことでしょう。何度読んでも涙が出ます。

【パパへ】
パパ、てんごくでなにしているの。マーちゃんをおそらからみているの。
パパは、じしんでてんごくにいっちゃったから、もうマーちゃんのおうちにはこないの。
じしんのまえ、パパとおえかきしたり、おうたをうたったね。
パパのくるまでおかいものにいったね。
パパは、マーちゃんがビールをいれるとおいしそうにのんだね。
また、おうちにきてくれたら、ほいくえんのおはなしもしてあげるよ。
おいしいビールのませてあげるよ。
てんごくにでんしゃないのかな。
マーちゃんがおおきくなったら、パパのところにいけるの。
それまで、マーちゃんのことみててね。
パパ、もういちどマーちゃんのことだっこしてね。

行政は防災に対する認識を根底から覆し、民間では「ボランティア運動」が定着しました。「ボランティア」。言葉は知っているけれど、くわしい意味は知らないという人が多いのでないかと思います。それは、ボランティアという言葉が日本語に訳しにくいことでもわかります。

「ボランティア」とは英語です。その語源は「ボランタス」というラテン語なんだそうです。英語で「ボランティア」、フランス語で「ボロンテ」。つまり世界中で生きている言葉です。その「おおもと」のラテン語の「ボランタス」には、「自由」とか「正義」、それに「勇気」という意味が含まれています。ボランティア活動は自由な活動です。他人から強制されたり、義理とかつき合いでやるものではないのです。自由という字は「自らに由る」と書きます。自分で考え、判断して「よし、やろう」と自分が決めて、やる、これが「自らに由る」です。

『誰かの笑顔のために』、これから自分に何ができるのか、何をしなければならないのか、いろいろなことを考えてみてはどうでしょうか。１月１７日は「ボランティアの日」になりました。

ヤル気　イッパイ　ボランティア！

平成８年度「第１回ふくしま、ふくしボランティアフェスティバル」

○　ボランティア活動体験作文　中学生の部　最優秀賞　・三春中学校　田中　歩　さん

彼女は、安積女子高校（現：安積黎明高校）に進学し、国際交流などに関心を持ち、将来は海外留学を夢見ていました。高校１年生の１月には青年海外協力隊で募集した「高校生エッセイコンテスト」に出品し、見事に入選しました。国際ライオンズクラブでは、毎年３回、各地区の若者を留学して派遣する「国際青少年交換事業」を展開し、郡山ライオンズクラブが一般公募を始めました。その公募を学校の掲示板で知り、応募。面接と英会話のテストを受け１４倍の難関を突破し、平成１０年１２月にインドに留学しました。高校２年生でした。

しかし、留学先のインドで交通事故にあい、帰らぬ人となりました。これからというときに…。

彼女の作文を紹介します。ボランティアについて考える資料にしてください。

ボランティアの意味

「社会や人のためにつくすこと。」簡単にいえばそれがボランティアですよね。それならば、お店で働いている人や何かを作り、それを売っている人だってボランティアをしているのではないか、そうは思いませんか。やはり人や社会に大きな役割を持っているのですから。それをボランティアと呼ばないのには、やはり何かわけがあるのです。

一番大事な「報酬を求めるものではない」ことです。報酬といっても色々あります。お金だったり物だったり。そういうような形のある報酬を求めるのはいけないのであって形のないものはよろこんで受け取るべきです。例えば、よろこびの言葉、うれしそうな笑顔、そしてなによりも「ありがとう」と言われれば、それ以上の報酬はありません。私の体験の中で一番印象に残っているでき事は、「大林文庫」という家庭文庫でのことです。

今から１０年くらい前、私が５、６歳のころ、そこはできました。それから土曜日はほとんど毎週通っていました。けれど中学校に入ってからは行かなくなってしまったのです。そしてつい先日、２、３年ぶりで行ってみると何一つ変わっていません。入口に泥まみれで立てかけてある竹馬も本の位置も、奥にある画用紙も、棚においてある紙芝居、そして壁に貼ってある小さい子が描いた絵も前と同じでした。そこで小学生よりも小さなかわいい女の子たちが何かやっていました。見てみると折り紙です。小さなその指でせっせと折っていたのです。もちろん字は読めませんから、本を見ていてもその通りにはできません。何を折っているのか分からないけれど一生懸命でした。そこで、私がゆりの花を折ってあげるととてもよろこんで、そして本をつき出し、「次はこれを作って。」と指指しています。折っているのを見るだけで楽しいのでしょうか。じっと見ています。簡単な、花の折り方を教えると、あっという間に覚えてしまいます。しばらくたって折り紙にあきると、「今度はあの本読んで。」「絵をかこうよ。」と腕をひっぱります。

時間はすぐに過ぎてしまいます。その子たちの母親がむかえに来て帰り際、「また遊ぼうね。」そう言って笑ってくれた時、とてもうれしくなりました。今は毎週とはいきませんが時々遊びに行っています。今度は字を教える約束をしました。そんなささいなことでも十分報酬を受け取った気がするのです。

子供と遊ぶこと、お年寄りの世話をすること、ゴミを拾うこと。みんな当たり前のことです。このような当たり前のことをみんながやっているのならば、「ボランティア」という言葉はないはずですよね。特別な普通とは少し違うから、そのような言葉ができるのです。普通のことのようにやっていれば「ボランティアをする。」とは言いません。だからそういう言葉があることは、本来ならば悲しいことなのではないでしょうか。

「人間は、一人だけの力では生きていくことはできません。家族や地域の人々など、みんなが助け合い、支え合って、初めて幸せな暮らしをつくっていくことができるのです。」私が小学校の時、お世話になった先生の言葉です。「ああ、そうか。」と思います。ボランティアの本当の意味はこういうものではないでしょうか。社会や人のために尽くし、誰か一人だけではなく、自分を含めたくさんの人と支え合い協力して幸せになっていくこと、そう思います。

「ボランティア」をすることが、特別なことにならないように、私たちは努力していくべきではないでしょうか。

2018/1/17　5

前任校の要田小学校に勤務していたとき、全校集会で、彼女の作文を紹介したことがありました。集会後に子どもたちに書いてもらった資料から、当時６年生だった児童の感想を紹介します。

○　小さなころは、ボランティアという言葉の意味を全く考えようとしていませんでした。でも、最近、雪かきをみんなと行うようになって、ボランティアについて考えることが多くなりました。だれかを笑顔にしたり、だれかの役に立つことをしたり、それでも報しゅうを求めようとしないことが、ボランティアなのだろうと言うことを、改めて考えました。人のためを考えて、どんなに小さなことでもできるいうことが、当たり前になる世界なら、みんなが幸せな生活を送ることができるだろうなと、彼女の作文を聞いて思いました。大変なことでも、笑顔で「ありがとう」と言ってもらえたら、それだけで幸せになれる気がします。

【2017.1.16.7:50　撮影】

※　皆さんも「ボランティア」について考えてみませんか？